

Ube
宇部 I E C A 会報
International Cooperative
Environmental Association
Report

Ube I E C A Report

— 発行 —
宇部環境国際
協力協会

No. 14

2012.5.



安順市研修員は交流ボランティアの方々と広島平和記念資料館を見学後、日本三名橋のひとつで、日本を代表する木造橋の錦帯橋を渡橋し交流を深めました。300年前の頑丈な日本の組木の技法に研修員は感動しました。

「経済優先」から「環境優先」へ転換

JICA 草の根技術協力事業（地域提案型）「安順市における環境保全管理研修」（最終年次）

安順市で「宇部方式」をもとにした環境行政を推進し、安順市に適した環境管理体制を構築するため、平成21年度から3ヵ年計画で貴州省、安順市から研修員を受け入れ「安順市における環境保全管理研修」を実施します。安順市が貴州省の環境行政モデル地区になることを目指しています。

本年度は最終年次として「宇部方式」の手法と精神について学ぶため、安順市から環境行政指導者4名を受け入れました。



■ 研修実施主体	JICA、宇部市、宇部環境国際協力協会
■ 期 間	平成23年10月11日～10月26日 15日間
■ 研 修 員	申 亜柳 安順市人民政府 副秘書長 上 大勇 安順市環境保護局 副局長 俞 濤 安順市環境保護局開発区支局 局長 劉 曉鋼 安順市環境保護局黄果樹景勝区支局 副主任
■ 研 修 先	宇部興産(株)、ユーエムジー・エービーエス(株)、日本環境安全事業(株)、 (株)パワー・エンジニアリング・アンド・トレーニングサービス、 宇部地区環境保全協議会、共英製鋼(株)、都市産業(株)、(株)宇部衛生工業社、 山口大学工学部、宇部フロンティア大学、北九州市エコタウンセンター、 山口県、宇部市

開講式



宇部市副市長を表敬訪問しました。



市民を前にカントリーレポートを発表しました。

研修風景



リサイクルプラザ市民工房で衣類のリフォームを見学しました。



食品廃棄物から畜産用のエコ飼料を生産するきららエコフィード施設を見学しました。



宇部市市民環境部職員と環境行政について意見交換しました。



中国電力(株)新小野田発電所で石炭専焼発電所の環境対策施設を見学しました。

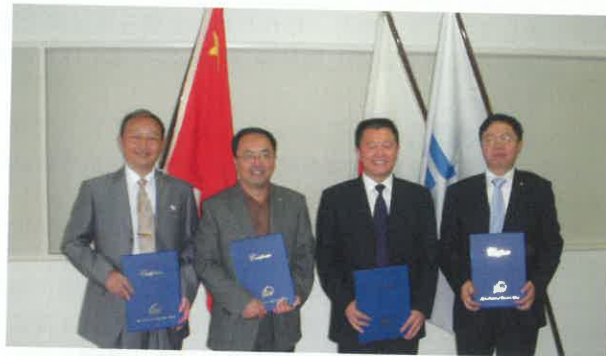


山口大学工学部で最新の廃水処理技術について学びました。



共英製鋼(株)で医療廃棄物を完全・安全リサイクル処理するメスキュードシステムを見学しました。

閉講式



JICA中国国際センターから修了証を受領しました。

ファイナルレポート発表会

ファイナルレポート発表会で研修員は1 今回の研修、2 研修成果、3 体得したこと、4 研修で受けた啓示について発表しました。このうち、4 研修で受けた啓示について抜粋し紹介します。



市民に対しファイナルレポートを発表する申亜柳さん。

●研修で受けた啓示（ファイナルレポートから抜粋）

研修を通じて、宇部市の経済発展と公害克服という過程は現在あるいは近い将来に安順市のたどる道だと思います。ただし、安順市の環境保護事業は宇部と比べるとかなりの格差があります。研修中、われわれはいろんな啓示を受けました。帰国後、われわれはこれらの啓示と習った先進的な経験を実際の活動の中で運用し、安順市環境保護事業を推進するつもりです。

(1) 認識を高め、環境管理の基盤を築く。

社会経済発展の中に、環境を重視するかどうかは、実際の仕事で「人間本位」を具体的に表しているかどうかということです。経済だけ発展させれば、人々の収入は高くなりますが、汚染された水・大気・食物を飲んだり食べたりすれば、いくらお金を使っても健康は取り戻せません。宇部市は「先に汚染、後に管理」という道をたどってきました。一定の期間内で環境質が大きく改善される理由は発展理念の変化です。現在、安順市は経済発展の肝心なときにあり、環境汚染・環境違法行為がよく発生する時期になります。もしわれわれは現時点で確実に発展理念を変え、「経済優先」から「環境優先」へ転換させれば、同じ轍を踏むことを避ける可能性はあります。

(2) 十分に政府の主導作用を発揮させることが市場経済の下での環境管理強化に不可欠である。

宇部市の環境管理の実践から見れば、環境管理は先進的な技術以外に、政府からの強力な推進力が必要であります。宇部市は市場経済が熟し、環境保全法律体系が完全であり、市民環境意識の高い工業都市です。それでも、市は依然として環境保全における主導作用を重視しています。安順市の経済体系と環境保全制度は遅れています。企業の自発的な汚染管理、市民の参加意欲はまだ低いです。それに、大規模な経済発展により、経済と環境との矛盾は際立っています。

ここで、各政府は十分に経済社会における強い力を使って、環境保全制度を建設し、科学的に環境保全計画を立て、「環境優先」の促進政策を制定し、市民に積極的に環境保全に参加させるなどの手段を利用して、影響力を発揮し、省エネ・小負荷という経済社会を促進し、良好で速い発展を求めます。

(3) 宣伝教育の強化は環境保全事業展開の原動力である。

宇部市は市民に対する環境教育を重視しています。宇部の伝統とされる「共存同栄・協同一致」の精神が、「産・官・学・民」の間に引き継がれ、公害問題を克服しました。市民の参加は環境保全の巨大な力になりました。比べると、この面においても安順市はまだ弱いです。さらに市民環境教育を強化し、環境教育を義務教育の中に取り入れ、全社会で広く環境保全知識と情勢を宣伝し、「環境は人々のため、人々は環境のため」という意識、人々はみんな主張者であると同時に管理者でもある理念を立てます。そして、環境保全の民間組織への支持を強化し、より多い人々が環境保全という公共事業へ参加するように呼びかけ、市民参加を推進し、全社会の環境意識を高めます。

(4) 環境保全に関するインフラの建設は環境保全の重要基礎となる。

街はもともと一つの生態系であります。汚水・悪臭などがあふれて、環境設備の遅れる社会は循環経済を發展させるのは不可能であります。宇部市は工業化初期から、環境保全に関するインフラの整備を始めました。今回の研修を通じて、一番感じたことはわれわれがまだゴミだと思っている廃棄物や汚水などが新たな価値を作り出しているところです。本当の意味での循環経済の發展理念を表しています。現在、われわれの主要任務は環境基礎設備の遅れを改善すること、汚染物の集中処理をはやめること、産業排水の基準達成と固体廃棄物の無害化処理と廃棄物の综合利用を推進することによって環境保全の堅固な基礎を作ります。

(5) 環境モニターリングの執行を強化することは環境保全のキーポイントである。

①企業は自発的に法律を守る。②環境部門は厳格に法律を執行する。③政府指導者は法律を執行することを理解し支持する。宇部市企業の環境意識が高いのは完備した環境保全法律体系があるからであります。安順市の環境保全における制度はまだ不十分であるため、企業の法律意識、道徳意識はまだ足りません。環境モニターリングと法律の執行を強化することによって、「法律を守るにはコストが高い、法律を執行するにはコストが高い、違法行為を行えばコストが低い」という異常現象を改善することは、企業の法律を遵守する意識を高め、企業の積極的な清潔生産の展開、循環経済の發展に有利であります。法律の執行を強化するには、環境部門の厳格に執行することと法律によって執行することだけが必要ではなくて、政府、市民、企業の支持と理解が必要であります。法律を執行することによって規則違反を厳しく取り締まります。

研修を通じて、われわれは知識を身につけ、見聞を大いに広めました。特に、宇部市民の強い環境意識と地球環境のために貢献していることに感銘を受けました。研修目標の達成と同時に宇部市民の真の友情を収穫できました。

JICA 草の根技術協力事業（地域提案型）「安順市における環境保全管理研修」専門家派遣

平成 21 ～ 23 年度に宇部市で研修を受けた研修員が帰国後、1 安順市及び貴州省において「宇部方式」の研修内容を組織として「宇部方式」を理解しているか。2 企業及び住民の一部が「宇部方式」を理解しているか。3 汚染源の自主管理・報告体制・危機管理・環境監視体制が改善されたか。4 廃棄物の処理、ごみ分別・リサイクルが改善されたか。について現地を訪問し確認しました。その結果、国家環境保護モデル都市の指定を目標にして、宇部方式の活用を推進し、安順市経済社会の持続可能な發展を促進しようとしており、宇部市での研修を受けた成果が、安順市での環境管理に大きな効果を与えたことが確認できました。

専門家には JICA 職員、新聞記者が同行しました。

■ 研修実施主体	JICA、宇部市、宇部環境国際協力協会
■ 期 間	平成 24 年 2 月 12 日～2 月 17 日 6 日間
■ 専 門 家	田中信博 宇部市市民環境部 次長 浮田正夫 宇部環境国際協力協会 理事長
■ J I C A	関根創太 国際協力機構 中国国際センター 総務部
■ 報 道 機 関	古重周三 (株)宇部日報社編集局 課長



羅榮彬安順市副市長、張明安順市環境保護局長、帰国研修員と協議しました。



新設された環境モニターングデータ処理室を見学しました。



宇部日報紙に掲載された取材記事 (第1報)

(記事原文) 1～4 報が入る方は事務局までお問い合わせください。

「宇部方式」を学ぶ (マレーシア青年)

JICA 青年研修事業 (都市環境管理コース)

マレーシア各地の将来の国づくりを担う青年 13 名が環境行政分野の研修を受けました。研修では日本の再生可能エネルギー (太陽光発電、風力発電、波力発電、地熱発電、バイオマス発電、生ごみ発電) や宇部市の環境政策、環境保全対策について学びました。さらに、宇部市が経験した激甚な粉じん公害を「宇部方式」により問題解決した経験や市内企業、大学等の環境保全技術を学び、幅広い環境保全対策・技術を習得しました。

■ 研修実施主体	JICA、宇部市、宇部環境国際協力協会
■ 期	平成 23 年 11 月 24 日～12 月 6 日 13 日間
■ 研 修 員	マレーシア共和国、青年行政官及び技術者 16 名
■ 研 修 先	山口大学工学部、宇部フロンティア大学、都市産業(株)、北九州市エコタウンセンター、日本環境安全事業(株)、福岡県大木町おおき循環センター、(株)日田ウッドパワー、九州電力(株)八丁原発電所、山口県、宇部市

開講式



久保田市長を表敬訪問しました。



ジョブレポートを発表しました。

研修風景



宇部市の公害対策、宇部市環境審議会、環境保全協定について学びました。



山口県宇部健康保健センターで大気汚染常時監視局を見学しました。



九州電力(株)八丁原地熱発電所で地熱発電施設を見学しました。



宇部市まちなか環境学習館の環境サロンで参加市民と意見交換しました。



おおき循環センターで生ごみからメタンガスの発生設備を見学しました。

交流



市民、学生と共に山口市、秋芳洞、萩武家屋敷を視察し、交流を図るとともに日本文化を学びました。

閉講式



市民、関係者に対し研修の成果を報告しました。

その他研修員受け入れ



平成 23 年度 J I C A 集団研修「大気汚染源管理」コース

研修実施主体：KITA（（財）北九州国際技術協力協会）

期 間：平成23年10月27日（1日間）（木）

研 修 員：中国、エジプト、ホンジュラス、イラン、モンゴル、スリランカ 11名

研修視察先：宇部興産㈱、宇部市

環境国際セミナーの開催

第 1 回 環境国際セミナー



◇平成23年6月23日（木）（平成23年度総会後）

◇宇部市文化会館

共 催：宇部市

演 題 1：「海外研修員(中国安順市)の受入成果について」

講 師：宇部市市民環境部 環境政策課長 藤永 義昭 氏

演 題 2：「インドネシアブンカリス市の環境問題の現状と環境保全技術移転の今後の展開」

講 師：山口大学名誉教授 宇部環境国際協力協会理事長 浮田 正夫 氏



環境保全技術講座の開催



生ごみのメタン発酵施設

第1回 環境保全技術講座



◇平成23年8月8日(月)

◇(有)鳥栖環境開発センター、佐賀県庁見学
後 援：宇部市

(有)鳥栖環境開発センターのVDF製造施設、堆肥化施設、木質バイオガス化施設、メタン発酵施設、佐賀県庁の太陽光発電施設を見学しました。



J-POWERの太陽光発電所(1MW)

第2回 環境保全技術講座



◇平成24年3月5日(月)

◇北九州次世代エネルギーパーク
後 援：宇部市

太陽光・風力等の自然エネルギー利用発電施設、エネルギーの企業間連携、エネルギー利用の革新技術等を見学しました。

広報活動

エコフェア



平成23年10月29、30日(土、日)
宇部市ときわ湖水ホール

「エコフェア」でパネル展示を行いました。

エコなかまの集い



平成24年2月25日(日)
宇部市ときわ湖水ホール

「エコなかまの集い」でパネル展示を行いました。

交流ボランティアの活動

JICA 青年研修（マレーシア）では研修員は当協会交流ボランティアと一緒に山口市、秋芳洞、萩武家屋敷を、また JICA 安順市研修では広島平和記念資料館や岩国錦帯橋を探訪し、交流するとともに日本文化、歴史を理解しました。



マレーシア研修員と瑠璃光寺を視察する交流ボランティア。



安順市研修員と広島平和記念公園を視察する交流ボランティア。

平成23年度総会



平成23年6月23日（木）に開催し、前年度事業報告、新年度事業計画が審議、承認されました。

ボランティアのお願い



国際交流および技術支援のボランティアを募集しております。皆様方の事情に合ったボランティアを積極的に行っていただけませんか。

<国際交流ボランティア>

今後、海外から多数の研修生が、宇部市を訪れると思われまます。外国語（英語、スペイン語、中国語等）の会話が可能な方で、休日のホームステイ、市内外の案内等をしていただきます。

<技術支援ボランティア>

環境技術をお持ちの方で、海外研修生の受け入れのための研修コースの策定、研修生の受け入れ、途上国環境対策調査等をしていただきます。

会 / 員 / 募 / 集

現在の会員数

- 個人 300人
- 法人団体 75団体

宇部IECAは会員の皆様の会費により運営されております。

会費は次のとおりです。

- ★個人会員 1口 1,000円(年額)
- ★法人団体 1口 10,000円(年額)
- ★何口でも可

宇部方式は、市民の皆様が積極的に参加するところにあります。「会員になって一緒に国際交流を行ってみませんか」と知人等へのお誘いをお願いします。

発行 宇部IECA
事務所

宇部環境国際協力協会

〒755-0045
山口県宇部市中央町3丁目12-19
オフィス OHI 201

TEL・FAX (0836) 36-3199

Eメール info@ieca.biz

URL <http://www.ieca.biz>